

第1回小郡市まちづくり条例作成委員会 要録

令和3年3月24日

市長挨拶	
市長	<p>皆様こんばんは。大変お忙しい中第1回まちづくり条例作成委員会ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、日頃から小郡市政に対しまして、多大なる様々な形での皆様のご協力については、改めてお礼を申し上げたいと思っております。</p> <p>さて、コロナにつきましても、小郡市ではワクチン接種に向けた体制づくりに全力で立ち向かっているところであります。全庁的な対応をする中で、5月に一斉に接種ができるように準備をしているところです。これからワクチン接種が進み、治療薬もできてくるといよいよ少しコロナから解放された生活を私たちは描いていかなければいけないという風に思っております。</p> <p>そうした中で、この小郡という地方の都市がどのような可能性があるかということを考えてときに、私は今こそ、この小郡市は光り輝くタイミング、いいチャンスがきているのではないかと思っております。交通の利便性の高さや、豊かな自然環境また、さらには高い市民力というものが小郡市を光らせるのではないかとこの風に思っております。62行政区、8校区協働のまちづくり協議会の地縁の活動のみならず、様々な方々が志を持って多くの活動に取り組んでいただいています。こうしたものが、様々なネットワークを組んで有機的に結びついた時には、小郡市はもっと爆発的な力を生み出すことができるんじゃないか、まさにそういった時に小郡市はもっともっと注目をされるようなわくわくするまちになるのではないかと思っております。</p> <p>今回のこの条例づくりは、丁度来年の市制施行50周年というタイミングに向かっているまちづくりの方向性をつけていく大事な大事な条例づくりという風に位置付けております。今日皆様のお顔を拝見しますと、本当に素晴らしい方々ばかりですから、来年の市制施行50周年には、ユニークな他にないような特別な条例をぜひ新しい感覚で皆様の議論の中で、作っていただきたいと、大いなる期待を込めさせていただきまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞ皆様よろしく願いいたします。</p>
小郡市のまちづくりについて	
事務局	内容説明
委員長	様々な背景から担い手、皆さんが活動している内容の説明があった。皆さんは小郡市のまちづくりの説明について質問や感じたことがあれば発言してほしい。
委員	友達が数名小郡市におり、遊びに来ることは学生のころからあった。小郡市は七夕のまちという印象と、友達が「織姫」になったりしており、私も小郡が大

	<p>好きである。説明を聞いて素敵だなと感じたのは、「支える」「育む」「つなぐ」「伝える」という誰でも分かりやすい事業展開や政策が市民の方も関わりやすい形で示されており、久留米市では見たことがない。ウェルカムな状況を行政が作り出しており、小郡市に関わらせてもらうので新しい目線で見させていただきたい。条例づくりの場が設けられることに私が携わらせていただいていることが住民目線になっておりとても嬉しい。</p>
委員	<p>小郡市の北の方は楠や古墳が多く、昔は原生林だったと聞いた。</p>
委員	<p>魅力化計画を経て活動をするようになったが、それまでは息子の介護で外との関わりが持てていなかった。目の前のことで精一杯で、まちの中で何があるのか知らない状態だった。息子を預けることになり、少し自分の時間ができたので、まちのことを知りたいとおもい参加したのが魅力化計画だった。そこから今の活動につながっているのが自分自身びっくりしている。魅力化計画に参加して自分のことが受け入れられる、つながっているという感覚をすごく持てた。育てていただいたし、活動を続けていけたり、こういう場を作っていただいたこともありがたい。活動をするうえでもバックアップをしていただいていることもありがたく、行政が身近に感じられるようになった。</p>
委員長	<p>以前福岡市で障がい者の地域生活移行部会で、発達や精神障がい者の方々の会議をお手伝いし、大変な状況であると感じた。最近防災関係で障がい者関係団体と話したところ、地域との接点をいかに持つかが大事で、災害の時に支えあうことにつながる。</p>
委員	<p>皆さんの話を聞いていて、自分も行政が身近に感じている。地元が佐賀だが、行政は中々行き辛いイメージだった。現在市民団体で活動しているが、市の補助制度の案内などがあったためスムーズに進んでいった。相談もできるし身近に感じて活動しやすいと思っている。</p>
委員	<p>小郡に越してきて5年ぐらいで、越してきた身からしたら飛び込まないと何も分からなかったのが、PTA 会長や部会長をさせてもらっている。今年はコロナ禍でも左義長（どんど焼き）をやりたいなと思っていたが、大雪で中止となってしまった。こんなに気軽に相談できる方がいるとは思っておらず、一人で頑張らないといけないと思っていた。しかし、区長や地域、行政の方が協力してくれると実感したため、飛び込んでみてよかったと感じた。</p>
委員	<p>事業者の立場で社会課題を解決するようなことを企業活動に取り込むことが大切と感じているが、一方で活動の採算があっていくことも必要で、他方で自分たちが主体にならなくても脇から少しだけでも支援していくことも大事だと感じている。社員の自宅で出た資源物を会社に持ち寄り、売却すると年間10万円ほどになるので、市内団体に寄贈させていただいていた。なるべくなら社員も市内に住むように住居手当も市内を高くしている。仕事の時間だけ仕事</p>

	<p>に貢献するのではなく、地域のサークルや消防団などに参画をするように促している。そういった活動も今までは点でしか思っていなかったが、点から線につながるようなこういった機会があるのは心強いし、もっと効果的な取り組みができるのではと感じた。</p>
委員長	<p>福岡市では共創のまちづくりで自治会や自治協議会だけでなく、地域課題をNPO、大学、事業者も一緒になってやろうといった取り組みが始まっている。福岡市の事業者で地域活動に力を入れているところがあり、社員が地域活動をするときは快く送り出したり、社員が地域の役職についたら手当てをもらえるような制度があるところがある。</p> <p>筑紫野市の防災講座でLINEをやった。集まったのは高齢者だったが、コミセン職員が高齢者だからやらないではなくて、情報弱者にならないように高齢者だからSNSを使えるようにならないといけないという想いで講座をやっていた。</p>
委員	<p>傾聴ボランティアを10年前から対面で高齢者施設に行きやらせていただいている。コロナ禍で施設から対面での傾聴をお断りされたので、この間にできることを考えた。千葉県にリモート傾聴をしている団体があったため、リモートで交流会を行い、学んだことを実践している。今後も対面で行いたいが、需要があればリモートも進めていきたい。また、私は障がい者福祉に携わっているが、10年以上前は障がい者福祉は障がい者だけだった。社会の変化で障がい者だけでなく子ども、高齢者なども含んだ縦割りではなく横のつながりも重要となってきている。現在は農業と福祉の農福連携で少しずつ変化してきており、それを生かしたまちづくりができないかと考えている。それとは別に、障がい者に対するボランティア支援も必要で、サポネットではあすてらすフェスタや会議などを協力を受けながらやっている。サポネットでプルタブを集めており、750kgで車いす1台くる。現在7台目が寄贈されており、社会福祉協議会とサポネットに各1台ずつ寄贈された。皆さんにも協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>以前も委員長と一緒にさせてもらったが、今回は雰囲気柔らかい。小郡市で生まれ育ち、子どもの教育のことで小郡市では学び場支援事業をやっているが、色々な方と協力しながら提案していった一人である。人とのつながりをたくさん作っていかないといけないと感じており、要望をしっかりと受け取り、それぞれの願いや想いを出せる場ができることと、それをしっかりと把握すること、それは行政だけでは難しく、活動している志をもった人も把握して事業につなげていくため、行政と協働してつなげていかないといけないと感じている。学び場も大事なものは持続可能な人であり、人が変わっていてもつながっていくようなまちにしていけないと感じている。ひょっとしたらそ</p>

	<p>ういったことができそうだなという風を感じている。今提案しているのが、コロナ禍で SNS の問題で差別や誹謗中傷がおきて、せっかく豊かに人がつながっていきこうとしているまちづくりを、差別や偏見が絶っていくのをどのようにして解消していくか、先進地の行政の取組みを小郡市にも紹介しながらやっている。学校は GIGA スクールが始まり、子どもたちに端末が 1 人 1 台渡るため、その時にでてくる教育格差をどのように埋めるか、情報弱者の問題は家庭の中にも入ってくる。そういった課題も皆さんと共有しながらアイデアをいただければ、意欲が湧いてくるような会になるのではないかと思う。</p>
委員	<p>持続可能という言葉は分かるが、難しい言葉なのでここで使われた意味を教えてください。</p>
事務局	<p>地縁や志縁の様々な活動があり、組織を維持していくまた、活動を発展させていくためには人の入れ替わりがあっても仲間を増やしたり新しい取組みを生み出していくことが必要。人を育て交代するサイクルを繰り返していくことにより、様々な取組みが将来に渡り継続していく、そういったことを持続可能なまちづくりと表現している。</p>
委員長	<p>SDGs の中にサステイナブルという言葉が使われている。自分は末永く色々な活動を続けていけるように人などをつなげていくことだと感じている。その中で新しい課題がでたら改善したり、一旦やめて新しい取組みにしていくなど続けていくことかと感じている。</p>
まちづくり条例について	
事務局	<p>内容説明</p>
委員	<p>まちづくりと一言で言っても委員の皆さんも福祉や防災、教育など様々なジャンルがあるが、条例はそれを包括したものなのか。</p>
事務局	<p>様々な分野で様々な目的をもった方々が活動をしている。そういった方々をどういった形で応援していくのか、分野に限らず地縁や志縁の活動を小郡市として応援していきたいという想いを条例にのせていきたい。分野に限ったものではない。</p>
委員長	<p>市民や職員の方でワークショップを企画しているが、委員会のメンバーも参加してよいか。</p>
事務局	<p>参加していただいてよい。</p>